
もういちど名前を呼んで

沢田佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もういちど名前を呼んで

【Zコード】

Z9577F

【作者名】

沢田佳

【あらすじ】

恋する一人にとって「時」とは止まつて欲しいもの。けれどこの世で唯一、誰の身の上にも公平であるのが「時」しかし、恋する想いは稀に「時」を超える。愛し合う一人は死別する。しかし、強い想いは時を越え、同じ相手と再び出会つ。それは「時」が許した、この世に2つとない宝石のような奇跡。藤野浩一と沢田柚子はそんな眩しい光の中で奇跡の再会を果たす。それは、過去の二人から今の一入へ送り届けられた熱いメッセージだった。柚子が先ず思い出し、浩一を秘密の場所へ連れてゆく。そこには疑いようの無い事実

が・・・浩一は真相を知り、柚子を抱きしめる。「ねえ、浩一。人は嬉しいと、こんなにも身体が震えるものなの?」

時が許した奇跡

「 もうこちがひな前を呼んで」

↙あらすじ↙

恋する一人にとって「時」とは止まって欲しいもの。

けれどこの世で唯一、誰の身の上にも公平であるのが「時」 しかし、

恋する想いは稀に「時」を超える。

愛し合つ二人は死別する。しかし、強い想いは時を越え、同じ相手と再び出会つ。

それは「時」が許した、この世に2つとない宝石のよつたな奇跡。

藤野浩一と沢田柚子はそんな眩しい光の中で奇跡の再会を果たす。

けれど一人とも直ぐには思い出せなかつた。

出会いの時から不思議な感覚に包まれる一人。

お互に惹かれ合つが、なにかしら氣になるものを感じていた。

普通の恋人たちはそんな事は気にかけない。盲目になれるから。

そう、恋とは落ちるもの。

けれど浩一と柚子には何かが見えそうな氣がするのだ。

かれらは恋に落ちることが出来ないでいた。

やがて一人は奇妙な夢を見るようになる。

それは、過去の一人から今の一人へ送り届けられた熱いメッセージ
だった。

柚子が先ず思い出し、浩一を秘密の場所へ連れてゆく。

そこには疑いよつの無い事実が・・・浩一は真相を知り、柚子を抱きしめる。

「ねえ、浩一。人は嬉しいと、こんなにも身体が震えるものなの?」

「もつこちび名前を呼んで」 本編

＜夢＞

何か変? そう感じた時、柚子の田^たが覚めた。

「ふーっ、おかしな夢」

彼女はこのところ、毎夜同じ夢を見続けている。

しかも初めての夜を前編とする。2回目は中編。3回目は後編、

と言つた具合だ。そして4日目にはまた前編にもどる。

この繰り返しに気付いたのが今日だった。

前編は小学生から中学生までの夢。

そして中編は中学卒業と、同級生、木野浩一との別れ、そして高校進学。

さらには、大学在籍中にスカウトされ、モデルになるまで。

後編は木野浩一との再会、結婚。そして永遠の別れ。

はじめて。この連続ものの物語のような夢を見たのは、

柚子にとって26度目の誕生日、6月21日だったから

2度目の後編を見たのが今日、6月26日だった。

何か変？柚子がそう感じた理由は、連続した夢を2度も続けて見た事だけでなく、その中身にあった。

前編は憶えている」とばかり

「ええ、そうね。やうだつたわ」

彼女は夢の中をうつた。

中編も途中までは・・・中学卒業。木野浩一との別れ。

そして高校進学。1911までは・・・

「ええ、そうね、やうだつたわ」

なのだが。夢では大学に入学し、在籍中にスカウトされて
モデルになつてゐるし、父親も健在だ。だが現実は。

「父は私が高校3年生の時に亡くなつてゐるし、

私はスカウトされてモデルになつたんぢやなくて、

母のお友達のおばさまから薦められてオーディションを

受けて合格した。それでモデルになつた」

そこが違つし。

後編は、まったくの未体験シーン。彼、木野浩一との結婚については。

「考えたことが無かつた。と言ふば嘘になる

と、ひとり顔を赤らめた。そして後編の結末については。

「あまりに悲しそうである。考えられない

と、ひとつ言を言つて、ベッドを離れた。

柚子の父親、沢田周一は「沢田整形外科クリーチク」の院長だつたが、

柚子が18の時、急逝した。

不幸中の幸いとも言つたが、沢田周一の実弟、

沢田 実は当時公立の総合病院に外科医として勤務していたのだが、

亡き兄とその家族、特に姪の柚子の将来を想い、兄の跡を継いで

「沢田整形外科クリーチク」の院長となつた。

彼はすでに自分の家を構えていたので、車で通つてはじめた。

おかげで秋子と柚子は、周一との思い出で一杯のクリーチクの

2階にある我が家での暮らしを続ける事が出来るよつになつたのである。

柚子は例によつて歩きながら歯を磨いてゐる。

母親の秋子の口が開きかけたけれど、思い直したよつてソファに腰を沈め、

読みかけの新聞をたたんでテーブルの上に置いた。

「さてと、・・今朝は何を食べるの?..

秋子は田の前を行つたり来たりしきて、歯を磨き続ける我が娘を田で追いながら

朝食のメニューを聞いた。

柚子の朝食はその日によつて変わる。

大体は「野菜ジュースとベーコンエッグ」なのだが、

今田もそつだと思つて支度をしてみると。

その日に限つて

「今日はお味噌汁が良かつたのにー」

などと我がままを言つたりするので、この優しい母親は

毎朝聞く」としている。誰が見ても甘やかし過ぎだりつかれど、

これはこの親子の約束事なのである。

父、周一が死んでから、柚子は悲嘆のあまり、著しく食欲を失くした。

髪を梳かすことを母に言わなければ忘れる。朝食は手もつけない。

昼は学食だが親友の真紀子が誘つても、牛乳を飲む程度。

夕食は秋子が腕によりを掛けて柚子の好物を作つてあげた。

それでも柚子は一口、一口、そのくらいしか食べない。

痩せる一方だった。

ある日柚子の母の前で、母は唐突に涙を流した。柚子は驚いた。

(お父さんが亡くなつてから初めて見る。お母さんの涙)

「柚子、このままあなたがやせ細つて病氣にでもなつたらお母さん、

お父やん頑張つて何だつて作るから、お願いだから何か食べて頂戴

お母やん頑張つて何だつて作るから、お願いだから何か食べて頂戴
！」

せつこに終わると母はベッドに横たわる我が子の前に泣き伏した。

声を上げて。

柚子は思つた、こんなに母を心配させたいたなにて。

「お父やん、」おとなしこ。お母やん私、酷こじりつけつてた。
これがひまつこと仲良へして、こつまごせん。お母やん
・・・それでここのはな？お父やん

柚子は、ナイトテーブルの上に置こいある父の写真を入れた
フォトスタンドを手に取り、心の中で父にそう話しかけた。

それは彼女にとつて母に対する謝罪であり、父への誓つだつた。

彼女は溢れる涙をその長い指で拭い、

体を起しあとベッドから下りて母の前に両手をついた。

「お母さん」

秋子にはまだ柚子の呼ぶ声が届いていなかった。

柚子は肘をつき、父親譲りの指の長い大きめな手を母の手に重ねた。

秋子の体がぴくっと動き、彼女は泣き止んだ。

まだほんの少しあくびはこなが。もう一度柚子が母に声をかける。

下から母の顔を覗きこむよひしながら。

「野菜ジュースとベーコンエッグ」

秋子が驚き、そして確かめるように言った。

「今、何て言ったの？」

「野菜ジュースとベーコンエッグが食べたいって言ったわ

柚子は精一杯優しい笑みを母に見せてあげながら、そつそつと

母は何も言わず、我が子を抱きしめた。力いっぱい抱きしめた。

「お母さん、痛い

急激に痩せたせいか柚子の体は軋むようになった。

「あーー」めんなさい！

あんまり嬉しかったものだから、つい力が入っちゃった

柚子の肩をさすりながら秋子はそつそつと

「けど、そんなものでいいの？」

「今は、それが食べたいんだけど。だめ？」

秋子は激しく首を振った。

「いいえ、そんなこと無いのよ。ただ・・・いやいい。

『気が変わらなければ作っちゃおー。』

いつもと秋子は走るよつて柚子の部屋を出て行った。

「野菜ジュースあつたかな・・・」

小さな声で母がいつものが聞こえた。柚子の顔に笑みが浮かんだ。

彼女は再び父の写真に話しかけた。

「お母さんて、可笑しいよね。でもお父さん、そこが好きだったんだよね。

・・・私の事、あんなに愛してくれていたのに。

今まで気付かなかつた・・・

わいつれからはお母さんの前では泣かないって約束するから。ね、お父さん

こうして母と娘の切ない思いを乗り越えた、微笑ましい生活が始まつたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9577f/>

もういちど名前を呼んで

2010年10月20日18時03分発行